



● 図書カードを寄贈いただきました

3月10日、国際ソロプチミスト宮津（会長・小牧弘美氏）から「図書カード10万円」を寄贈いただきました。

この寄贈は、同団体の設立45周年を記念し子育てや子どもたちを支援するめ、「図書の購入にあててほしい」との考えから行われたものです。図書館では絵本や児童書、大人数でも読み聞かせができる大型の絵本を購入し、皆さんに利用していただく予定です。この度のご寄贈、まことにありがとうございました。



国際ソロプチミスト宮津の皆さんと矢野館長（左から2番目）

● 与謝野町出身の「あの人」の本が入りました！

『超人ソリューション 筋肉と向き合う哲学』

心も豊かになる筋トレの法則』

糸井嘉男／日本文芸社

与謝野町出身で、昨年惜しまれつつ現役を引退した元プロ野球選手の糸井嘉男さん。糸井さんは「超人」と呼ばれた肉体をどう鍛え上げていったのか。そのトレーニング方法を紹介するとともに、現役時代のエピソードも振り返ったファン必読の1冊。



今月の新着図書

一般書 ●『安倍晋三回顧録』 安倍晋三／中央公論新社 ●『カリスマ保育士てい先生の子育てのみんなの悩み、お助け中！』 てい先生／ダイヤモンド社 ●『北欧で見つけた気持ちが軽くなる暮らし』 桑原さやか／ワニブックス ●『東大に名探偵はいない』 市川憂人／KADOKAWA ●『不思議カフェ NEKOMIMI』 村山早紀／小学館

児童書 ●『くすのきだんちのひ・み・つ』 武鹿悦子／ひかりのくに ●『てをつなぐのだいすき』 きむらゆういち／偕成社 ●『ロボットは泣くのか？』 佐藤まどか／講談社 ●『大雪のサバイバル』 ポドアルチング／朝日新聞出版 ●『未来の給食、なに食べる？』 楠木誠一郎／講談社 ●『だれもみえない教室で』 工藤純子／講談社 ●『そつえんセブン』 もとしたいづみ／世界文化ワンダークリエイト

おはなし会を開催します

【野田川分室】 4月22日（土）
【本館】 5月6日（土）
【加悦分室】 5月13日（土）
※ 3会場とも午前10時30分から



住所変更などは図書館へ連絡をお願いします

初めて図書館で本を借りるときは「利用登録」が必要です。身分証明書（マイナンバーカード、運転免許証など）をお持ちのうえ、図書館まで申し込みください。なお、利用者カードを紛失した場合には、150円の再発行料がかかります。

● 問い合わせ先／与謝野町立図書館 ☎46-2451 加悦分室 ☎43-0376 野田川分室 ☎43-0087
● 開館時間／午前10時～午後6時 ● 休館日／毎週月曜（本館・加悦分室）、毎週火曜（野田川分室）、毎月最終木曜（共通）

皆

皆さん、こんにちは。橋立中学校ALTのピーターです。去年の夏に与謝野町に来町してから半年以上が経過しました。

今回、与謝野町で過ごす初めての冬には、多くの雪とともにさまざまなことを経験しました。私の住んでいたアメリカ合衆国のヴァージニア州は、大西洋に面した東側に位置しています。大西洋に面しているというので、比較的温暖な気候ではありますが、冬には雪が降ることもあります。しかし、与謝野町と比べると雨や雪が降ることは珍しく、与謝野町の「うらにし」にはなかなか慣れません。また、雪が降ること自体が珍しく、雪の予報となると町中が大混乱になります。住民はすべての道路に融雪剤をまき、学校はすべて休校になります。天気予報は必ず当たるわけではないため、当日雪が降らなかつたときは、学校はそのまま休校となり、少し得した気分になることも多くありました。与謝野町では雪が降ったとしても少しの雪では休校にはならず、子どもたちが元気に雪道を歩いて通学する姿を見て、とても驚きました。

私はヴァージニア州のほかにボストン市、オランダにも住んでいたことがありますが、どこも共通して平坦な土地であり、与謝野町のように美しい山々を今まで見たことがありませんでした。紅葉の時期ももちろん美しいですが、雪が積もった後の山々の美しさには心が打たれました。このような美しい光景を日常的に見られることはとても貴重な体験であり、そのことを思うと寒く厳しい与謝野町の冬もよいなと思います。



日本の雪山は本当に美しいですね！

これからも与謝野町の広大な自然からなる美しい景色を楽しみながら、頑張っていこうと思います。

時の贈り物

[第126回 与謝野の氏神祭り② 江戸時代から続く加悦の天満神社の神輿渡御]

加

悦の天満神社は加悦・算所両地区の氏神で、神輿は両地区内を渡御します（神輿の巡行を「渡御」といいます）。掛け声は「ヨイッサー」で、世話方の号令に追いかけて約40人の担ぎ手が一斉に声を上げます。号令が「ヨイッサー」に変わると駆け足の合図です。重い神輿を大きく揺らして勢いよく進み、時に同じ所を何度も行ったり来たりして、観衆を大いに盛り上げます。観衆から「ヨイッサー」の声が上がることもあり、一体感に包まれます。

神輿渡御は2日間にわたりに行われます。初日の宵宮に天満神社境内の神輿堂から長い石段を下り、各所を巡り三河内地区に近い算所グラウンド北側の御旅所に到着。1泊した神輿は2日目の本祭で各所を練り歩いた後に、宵宮と逆の順路をたどって155段の石段を登り、神輿堂に戻ります。渡御に際して、神輿の前をチリリン棒や大鈴といった鳴り物とともに、加悦区5町、算所区5町がそれぞれ一本ずつ出す幟十本が進みます。神輿が停まる際に、これらの幟はまとまって立て掛けられますが、宵宮と本祭で並び順が異なります。算所の御旅所に向かう宵宮では算所が先に、天満神社の神輿堂に戻る本祭では加悦が先にと決められています。



宵宮に天満神社の石段を下りてくる神輿